

(再評価)

資料 1 - 7
関東地方整備局
事業評価監視委員会
(平成20年度第4回)

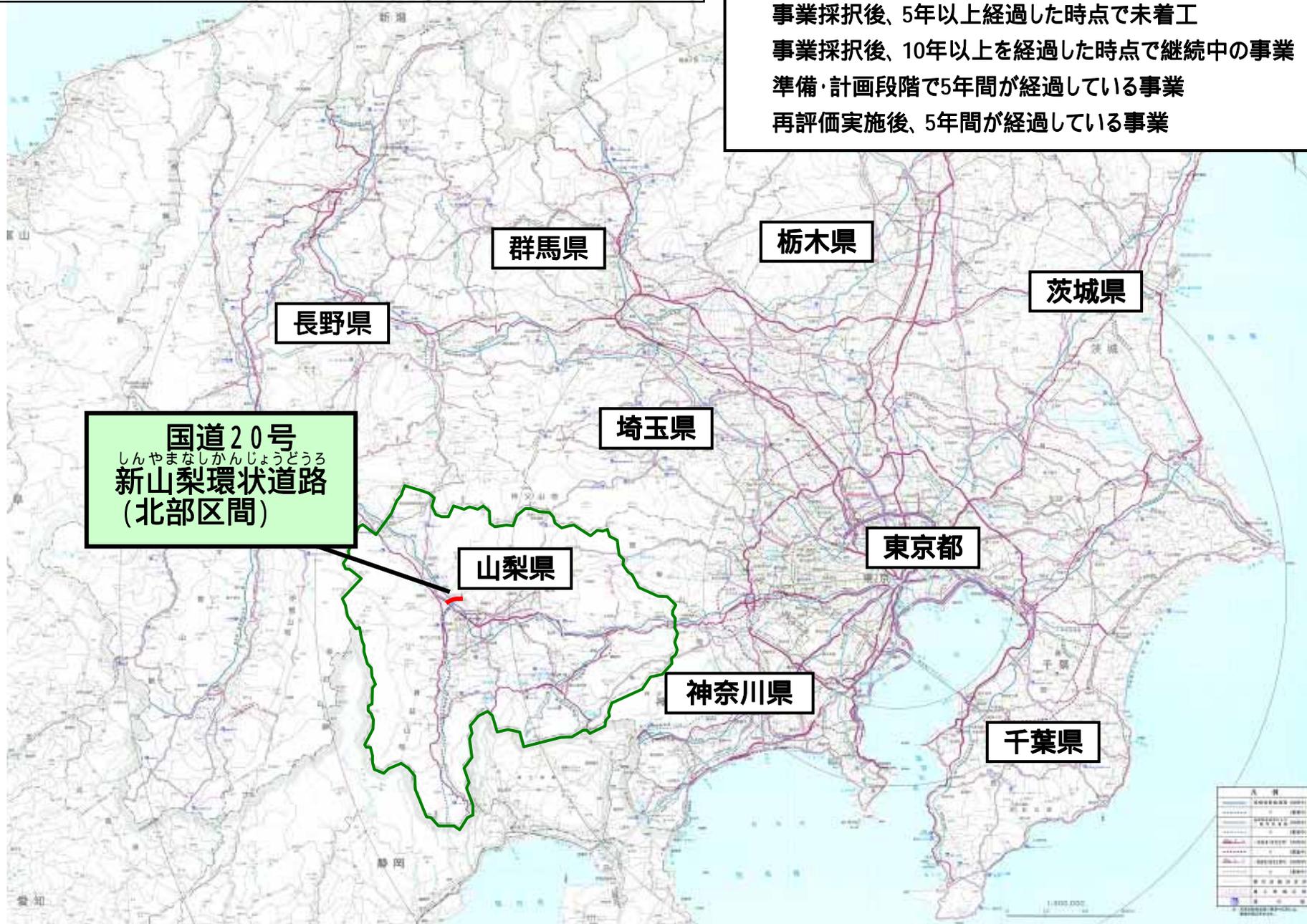
国道20号 新山梨環状道路(北部区間)

平成21年3月18日

国土交通省 関東地方整備局

事業評価監視委員会 道路事業 位置図

事業採択後、5年以上経過した時点で未着工
事業採択後、10年以上を経過した時点で継続中の事業
準備・計画段階で5年間が経過している事業
再評価実施後、5年間が経過している事業



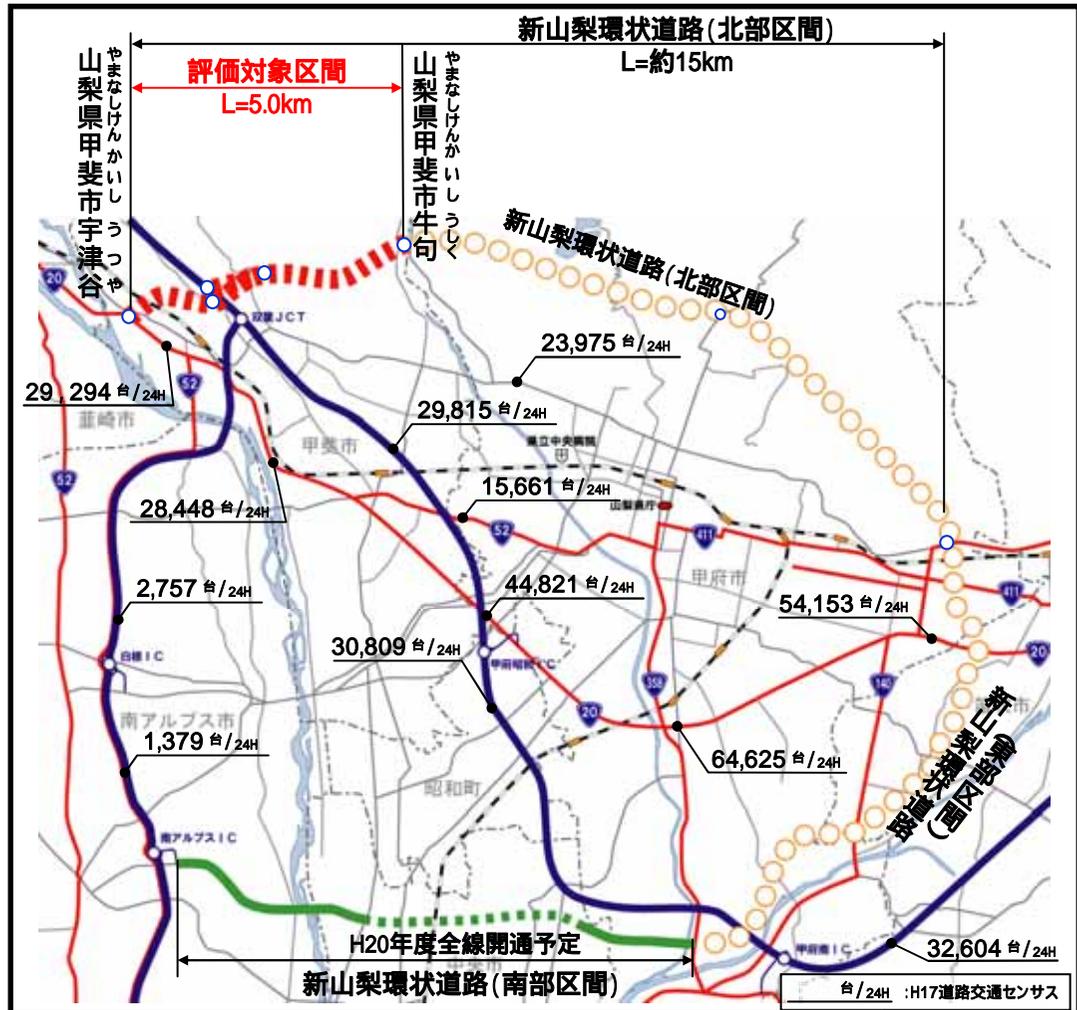
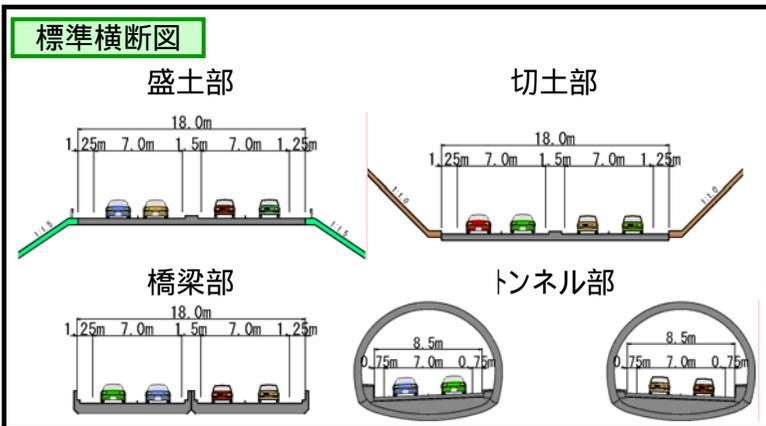
1. 事業の目的と計画の概要

(1) 目的

- ・甲府都市圏の交通渋滞の緩和(内外交通の分散導入、通過交通の流入抑制)
- ・地域間の連絡強化による連携・交流の促進
- ・中央自動車とのアクセス・ネットワーク効果の発現

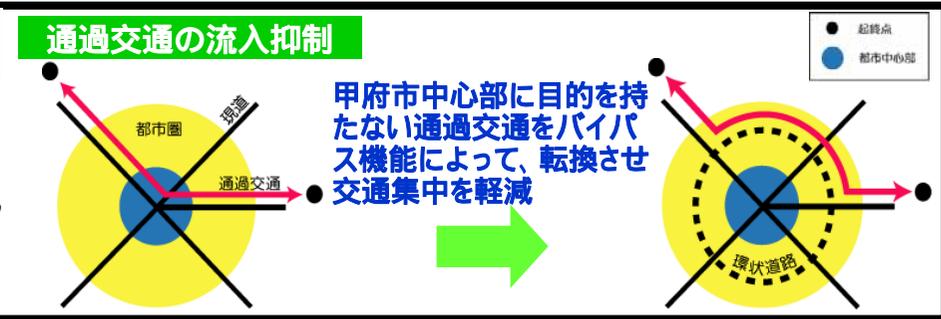
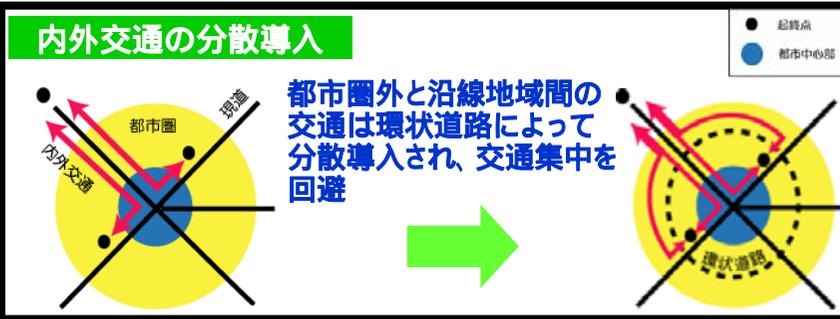
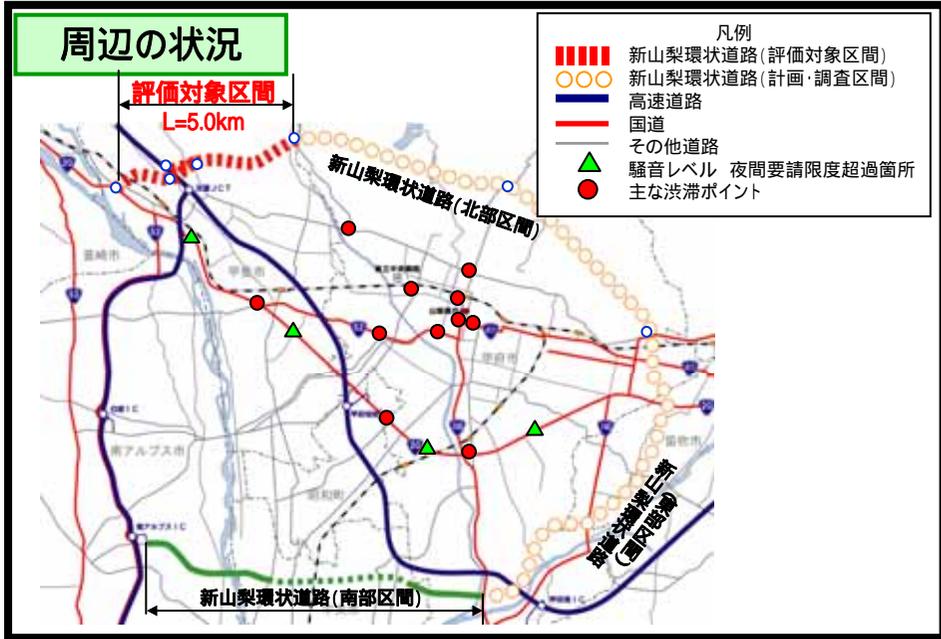
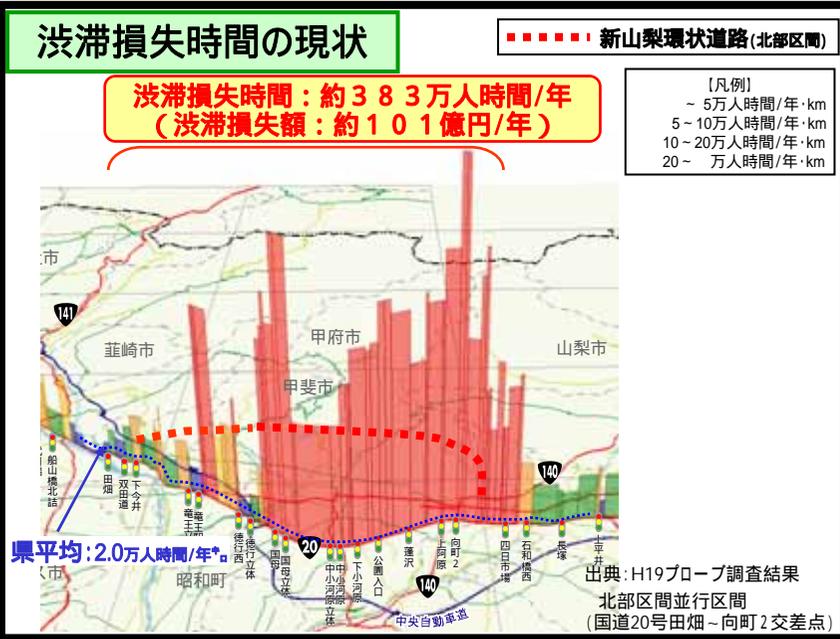
(2) 計画の概要

区間	: 自) 山梨県甲斐市牛久保 至) 山梨県甲斐市宇津谷
事業化延長	: L = 5.0 km
幅員	: 17.0 ~ 18.0 m
道路規格	: 第1種第3級
設計速度	: 80 km/h
車線数	: 4車線
事業化	: 平成16年度着工準備
事業費	: 約353億円
計画交通量	: 26,300 ~ 28,600台



2 - 1 . 事業の必要性に関する視点

- ・ 甲府市中心部では、郊外からの流入交通や通過交通が国道20号に集中し、主に東西方向において、交通渋滞が発生している。
- ・ それにより国道20号、52号等には主要渋滞ポイントや夜間騒音レベルの要請限度を越える箇所が存在しており、内外交通の分散導入や通過交通を中心部へ流入抑制させる環状道路が必要である。



2 - 2 . 事業の必要性に関する視点

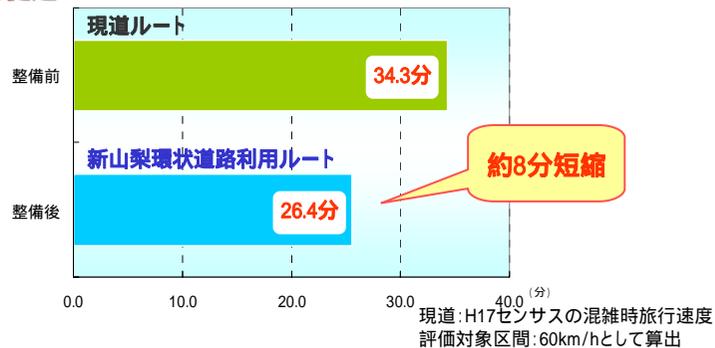
- ・当該区間の整備により、韮崎市、北杜市方面から県庁間の移動時間が短縮し、地域間の連携・交流を促進する。
- ・さらには中央自動車道とのアクセス・ネットワーク効果により北杜市から山梨県立中央病院において、30分以内の搬送が可能となる。

地域間の交流促進への貢献



韮崎市～山梨県庁

韮崎市、北杜市方面からのアクセス性が向上し、地域間の交流・連携を促進！



救急医療への貢献

第3次医療施設への30分到達圏域



現況 : H17センサスの混雑時旅行速度
 ただし、H20年度までに整備された路線は法定速度で算出
 北部区間：60km/hとして算出

3. 費用対効果

事業全体

便益(B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益	費用便益比 (B / C)
	867億円	209億円	139億円	1,216億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用	
	276億円		19億円	295億円	

残事業

便益(B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益	費用便益比 (B / C)
	867億円	209億円	139億円	1,216億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用	
	265億円		19億円	284億円	

注1) 費用及び便益額は整数止めとする。

注2) 費用及び便益の合計額は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

注3) 便益・費用については、基準年における現在価値化後の値である。

基準年：平成20年度

費用対効果【未事業化区間を前提としない条件での評価】

未事業化区間が整備済みと設定した上での
事業化区間の評価



$B / C = 4.1$

延長約5 kmの事業化区間のみが
存在する場合で評価



$B / C = 2.0$

4. 事業進捗の見込みの視点

・事業の経緯

- 平成16年 3月：地域高規格道路の整備区間（甲斐市牛匂～甲斐市宇津谷の5 km）に指定
- 平成16年11月：新山梨環状道路整備促進期成同盟会、要望書を提出
（～H17, 18, 19, 20年度）
- 平成16年12月：「新山梨環状道路懇談会」開催（計2回）
- ～平成17年 1月
- 平成17年 2月：概略計画（ルート帯）のルート構造を公表
山梨県において、都計・環境影響評価手続き着手
- 平成17年 7月：環境影響評価方法書の公告・縦覧
～ 8月
- 平成17年12月：山梨県において、環境影響評価方法書に対する公聴会開催
- 平成18年 3月：環境影響評価の現地調査及び環境影響評価準備書の作成着手
- 平成21年 1月：水文環境技術検討会設立、現地地質調査実施

用地買収は未着手



4. 事業進捗の見込みの視点

	着工準備	環境影響評価 現地調査着手	才オタ力検討会	才オタ力検討会	水文環境技術検討会 現地地質調査	
年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21
調査 測量 設計						
用地					0%	

5. 今後の対応方針(原案)

(1) 事業の必要性等に関する視点

- ・甲府都市圏では交通が集中し、慢性的な交通渋滞が発生している状況であり、内外交通の分散導入、通過交通の中心部への流入を抑制させる機能を持つ環状道路が必要である。
- ・地域間の移動時間が短縮することにより、連絡強化を図り、地域間の連携・交流を促進する。
- ・当該区間を整備することにより中央自動車道とのアクセス・ネットワーク効果が期待できる。
- ・費用対効果(B / C)は4.1である。

(2) 事業進捗の見込みの視点

- ・都市計画手続き準備中。
- ・新山梨環状道路を形成する西部区間、南部区間が平成20年度内に全線開通。
- ・各種委員会(水文環境技術検討、オオタカ等)により、周辺環境への影響について有識者の意見を踏まえながら進めてきている。
- ・関係機関との協議はおおむね完了しており、今後、環境影響評価準備書の作成を行うとともに、早期の都市計画決定を目指す。

(3) 対応方針(原案)

事業継続

事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。